こたえ 手作りのこま

月 日 名前

標準（ひょうじゅん） ⑦

手作りのこま

冬休みの前の日、たけるは図工の時間に作ったこまを持って帰った。かたむいた形で、回すとすぐにたおれてしまう。友達のこまがきれいに回るのを見て、たけるはくやしくてたまらなかった。

家に帰ると、おじいさんがえんがわで本を読んでいた。たけるがこまを見せると、おじいさんは手に取って、じっと見つめた。

「ここが少し重いな。じくも真ん中からずれている。」

おじいさんは小さなナイフを取り出して、重い部分を少しずつけずり、じくを立て直した。たけるも、紙やすりをもらって表面をみがいた。

一時間ほどたって、たけるがそっと回すと、こまはしばらく音もなく回り続けた。

「回った。」

思わず声が出た。おじいさんは、何も言わずにうなずいた。そのしわだらけの手には、木のこなが白くついていた。

形はあいかわらずぶかっこうだ。それでも、今のたけるには、だれのこまよりもかっこよく見えた。たけるは、早く友達に見せたいと思った。

1 たけるのこまは、回すとどうなりましたか。

すぐに［たおれ］てしまう

2 おじいさんがこまを見て、最初に気づいたことはどれですか。

ア 色がきれいではないこと。

イ 一部が重く、じくがずれていること。

ウ 紙がやぶれていること。

3 「だれのこまよりもかっこよく見えた」のは、なぜだと思いますか。

おじいさんといっしょに直して、自分の手で回るようにしたから。

4 最後のたけるの気持ちに合うものはどれですか。

ア くやしい気持ちのままだ。

イ こまをもう作りたくない。

ウ 友達に見せたいほどうれしい。

おうちの方へ

- 始めと終わりで気持ちがどう変わったかを比べましょう。

© きりんドリル kirindrill.com